

猪高緑地 塚ノ杵池

主催：なごや生物多様性センター

調査日：平成29年 9月 1日(土) 10:00 ~ 12:20

参加者：3名、 スタッフ8名(山下、高木、河村、富岡、浅井、森川、田中、井土) 計11名
(写真は、スタッフの山下氏撮影です。)

森の集会所で、参加者、スタッフの自己紹介を行い、ヒラマキガイ・マメシジミの標本を見ていただき、採取場所へ移動した。



採取場所で全員集合
木の葉の裏、枝、石などに付着しているなど、貝の採取方法等の説明をした。
採取用のフルイ、プレート等を説明し、採取開始。



落葉、枝、石などに着いている貝を探す。
1~5ミリと小さな貝、色の違いを頼りに採取する。



フルイに砂等を入れて選別を試みたが、砂と貝の区別が難しく、葉や枝を探すこととなる。



貝らしきものを見つける。
ルーペで確認し、貝と分かった。



サカマキガイ?を採取できた。



採取した貝をプレートに区分して個数調べをした。
貝かゴミか判定困難なものは、顕微鏡で確認した。
サカマキガイ 3個
その他種別判定の困難な貝 12個
それぞれ採取瓶に入れる。



参加者・スタッフ併せて11名で、約1時間の採取を行い、サカマキガイ 3個、その他 12個を採取した。

アサリ、シジミの潮干狩りとあまりにもかけ離れた、貝採取であったが、塚ノ杵池にこのような小型の淡水貝が、命を繋いでいることを確認できたことが、すばらしく思えた。

池だけでなく、雑木林、森、竹林、棚田など多様な姿を持つ、猪高緑地には、多くの生きものが、命を繋ぐ場として利用していることを知った。

生物多様性に富んだ環境を維持して、より多くの生きものと触れ合えることを願っている。